2021 年 4 月 1 日

2020 年度「自立援助ホーム支援助成」助成事業実施報告書

団体名 認定特定非営利活動法人 四つ葉のクローバー
代表者・役職名 氏名理事長 杉山真智子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

自立援助ホーム退所者と入居者交流会事業 (真夜中会議)

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

当法人は 2013 年より児童養護施設等退所者や社会的養護の必要な子供・若者を対象にシェアハウス事業を実施。2016 年 5 月滋賀県より自立援助ホームとして認可され、現在に至ります。
ＮＰＯ法人であり、正会員 48 名、賛助会員 50 名。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

社会的養護の必要な若者が、社会にでて厳しい環境におかれ身体的・精神的苦痛を抱えたまま生活困窮に陥る負の連鎖があります。困りごとを発信する力・その手段がないことが支援に繋がりにくい要因となり、継続して本事業のような取り組みができるような経済的・人的基盤を構築しなければいけないと考えます。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

毎月一度当ホームを退所した若者たちが実家に帰るようにホームに集まり、一緒に夕ご飯を食べたあと、いろいろな内容の会議をします。[ただいま～]と気さくに帰ってくる先輩たちを見て現入居者は[困ったことがあってもなくても、気軽に帰れる場所]と自然に肌に感じます。先輩の成功談や失敗談などが後輩に勇気をあたえます。先輩たちは後輩の役にたつことが自己肯定感に繋がり相乗効果がでる交流会事業です。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPUCT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

4/18 10 名・5/5 20 名・6/25 7 名・7/31 14 名・8/22 8 名 9/19 7 名 ・10/31 7 名・11/21 7 名・12/19 20 名
1/15 15 名 ・2/20 7 名・3/20 14 名 合計 129 名

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

社会的養護下におかれた児童の退所後の人生に対する社会の関心度は依然として低く、特に成人した場合はさまざまな課題を生み出しているのが現状である。そうした社会的な課題に対し、当法人、滋賀県、社協、各養護施設等と連携し、セーフティネットを構築していく。その活動拠点が当法人近くにできあがり、若者の自立支援を援助いていく。

7. 参考資料

支援対象事業で作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。	(参考資料あり) ・ 特になし

真夜中会議及び
四つ葉キッチン　2020年7月３１日金曜日

参加者：14名（退所者の子ども２名含む）

場所：コワーキング守山

料理：冷麺・キムチ・青椒肉絲・サラダ・他

相談：コロナ禍により仕事が待機になり派遣のため給料が激変した等